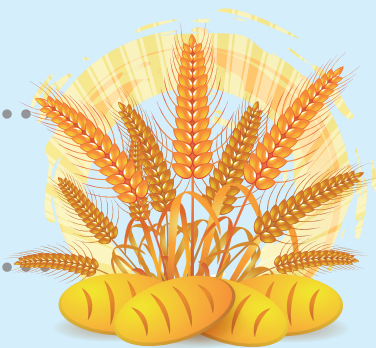


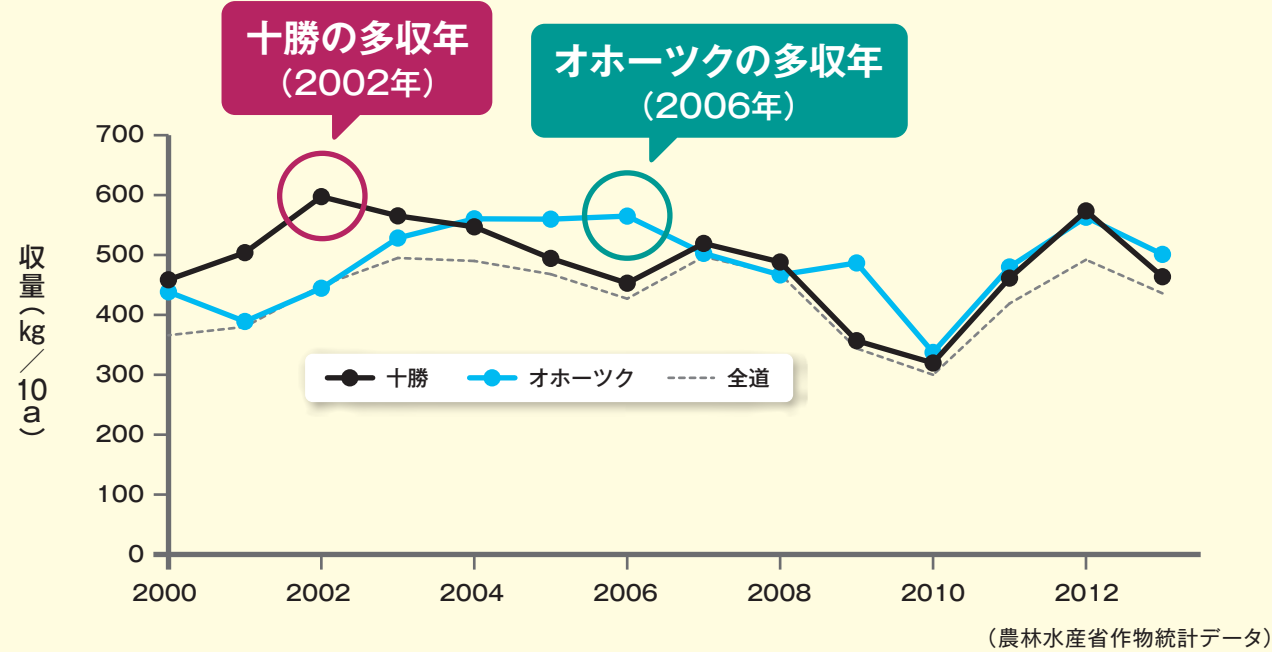
# 小麦が よくとれる 天気



撮影:池田町 武智唯浩氏

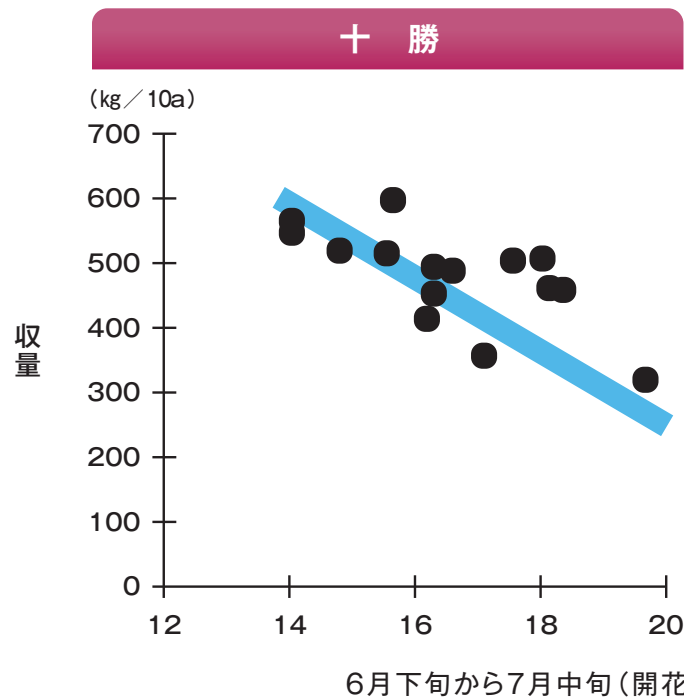


# オホーツク海側と太平洋側で 小麦がよくとれる年が違う

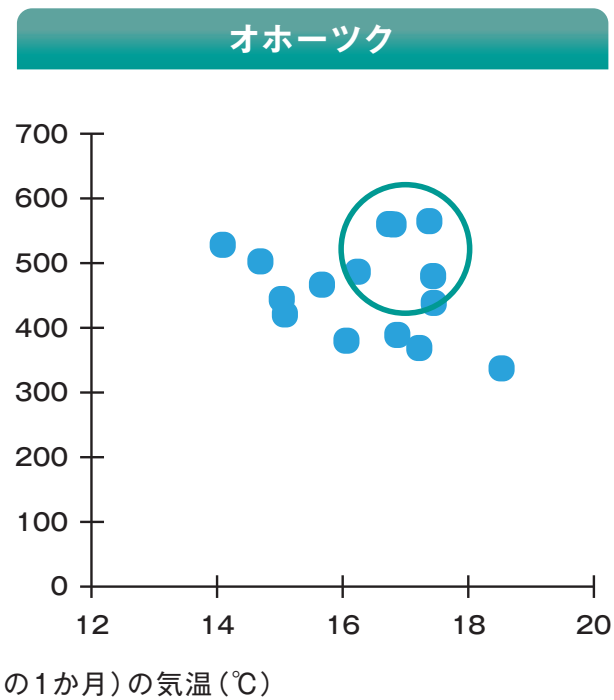


「ホクシン」が主力品種の期間

## 高温で収量が低下

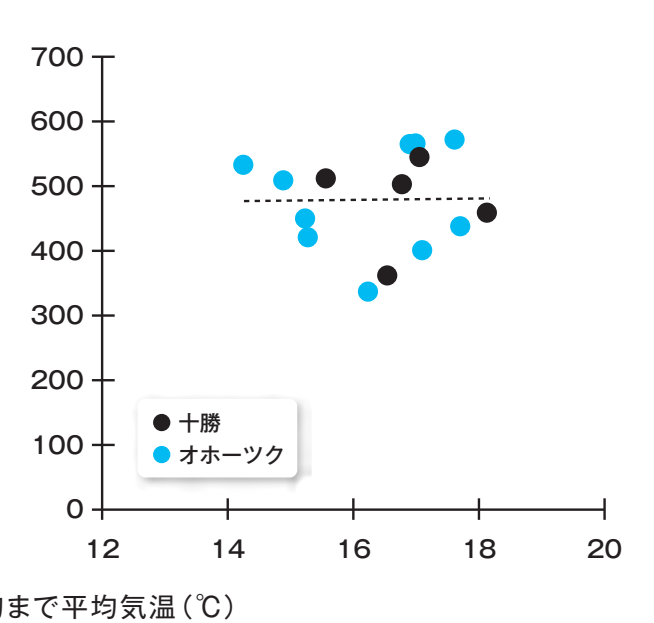
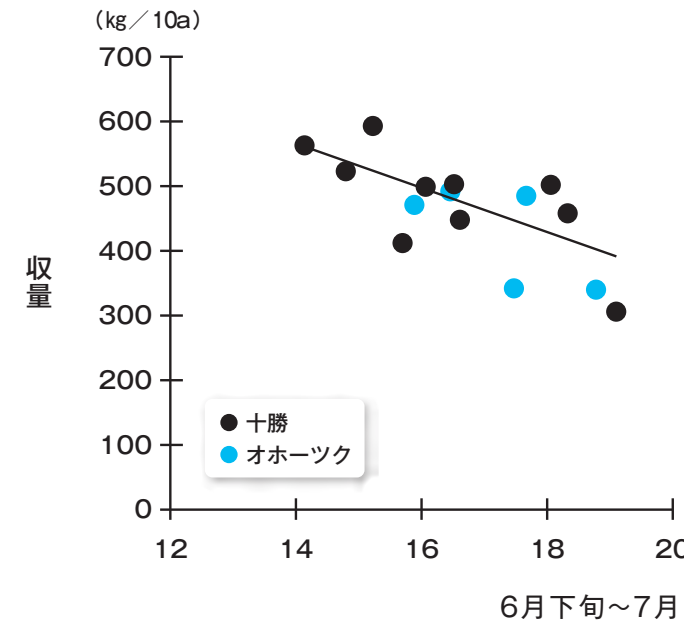
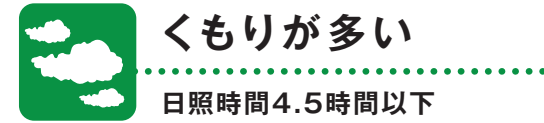


## ある程度高温の年に高い収量

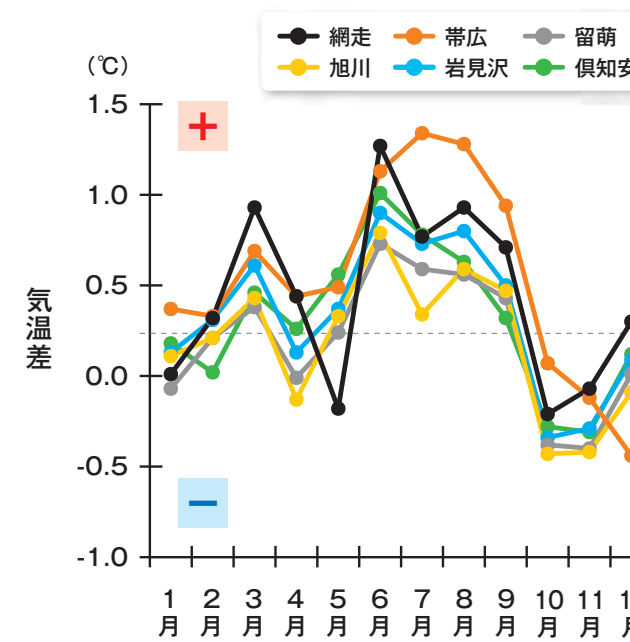


開花から子実がふくらみ始める時期の気象が最も重要

# 開花後に晴れていれば 少し気温が高くて小麦はとれる



## 光合成の増加が生育期間が短くなった分を補う



最近10年間と20年前(1987~96年)の気温の比較 (気象庁気象官署データ)  
今の方が暖かいは「+」、今の方が寒いは「-」

以前は、収量を大幅に下げる原因は冬損だった



冬損の減少

・品種改良・防除技術  
・3月、5月以降が高温化

開花期後の気象が重要に

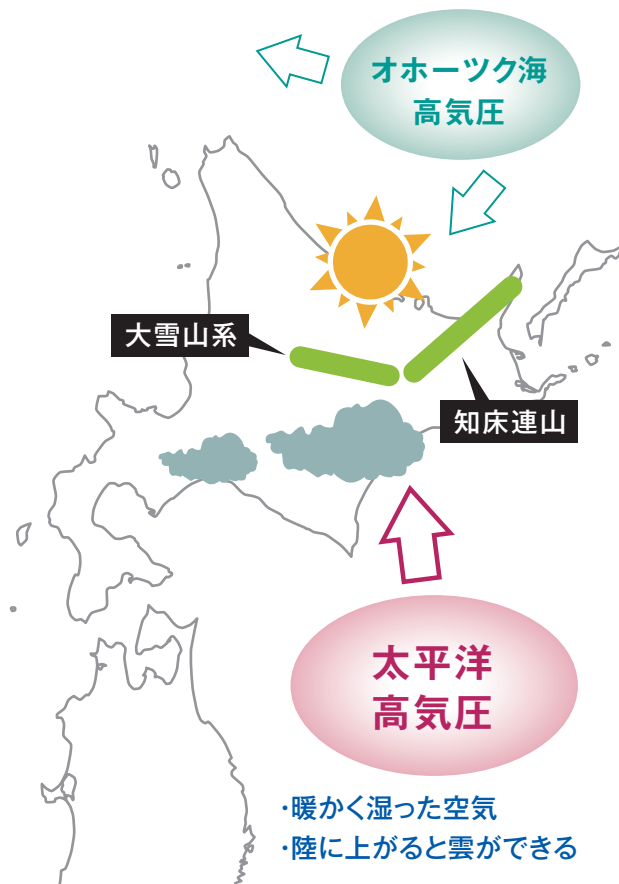
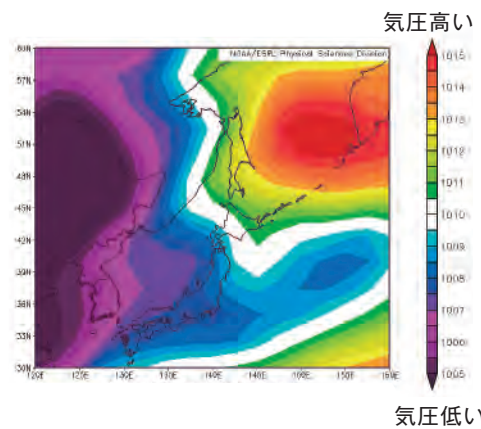
# オホーツク海側で

# 小麦がよくとれる天気

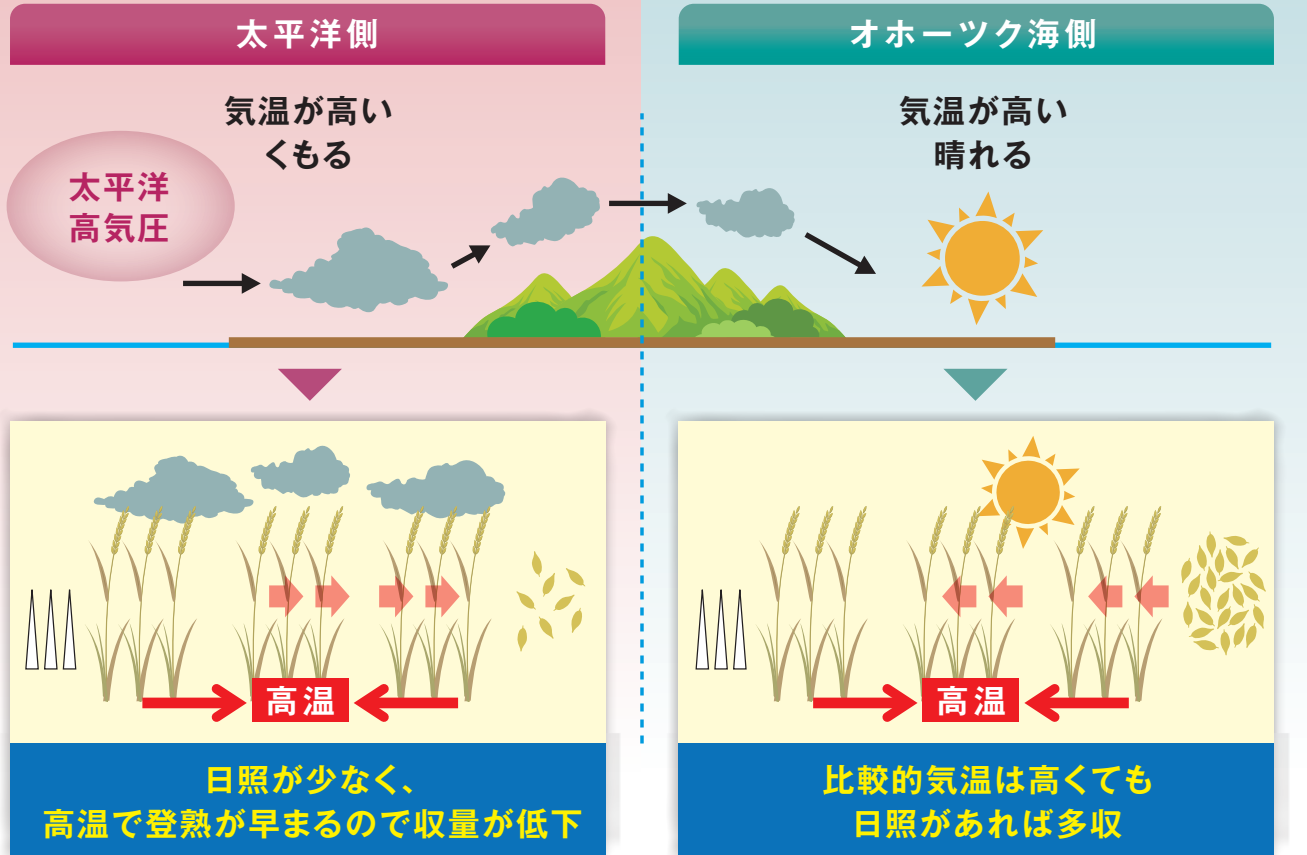
## 太平洋高気圧が強いとき

- 北海道は広く高温
- オホーツク海側は、大雪山系と雌阿寒岳-知床連山に雲がさえぎられるので、比較的好天
- 太平洋側は、陸地で雲ができやすく、日照が低下

2003年6月下旬から7月中旬の気圧配置



・暖かく湿った空気  
・陸に上がると雲ができる



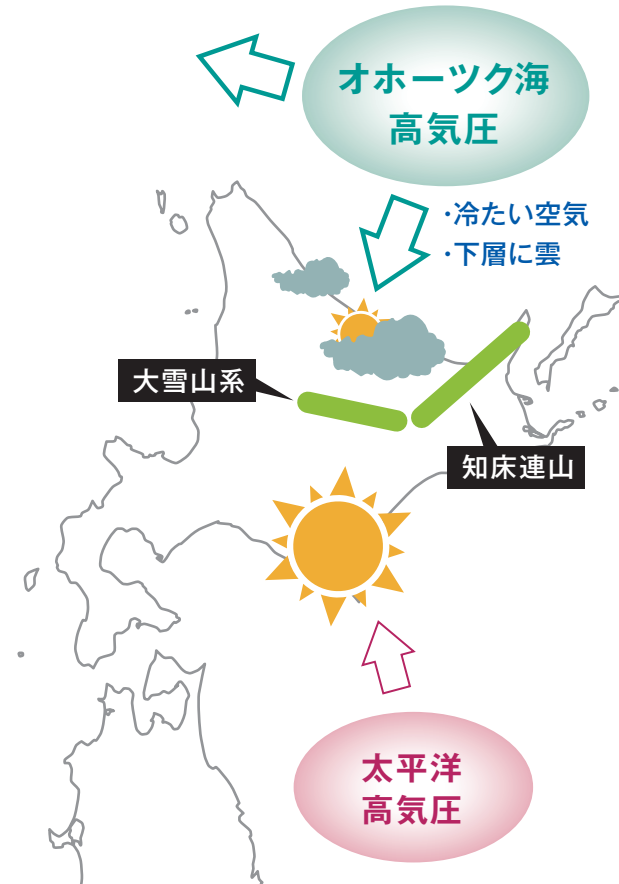
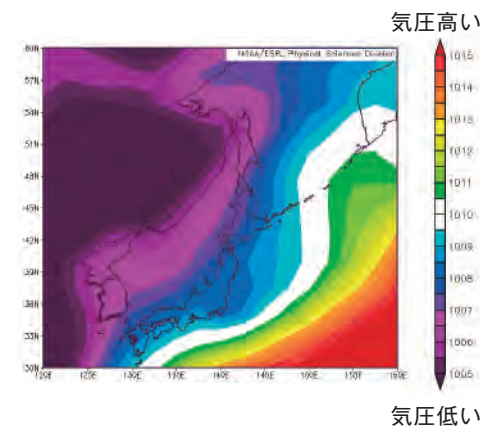
# 太平洋側で

# 小麦がよくとれる天気

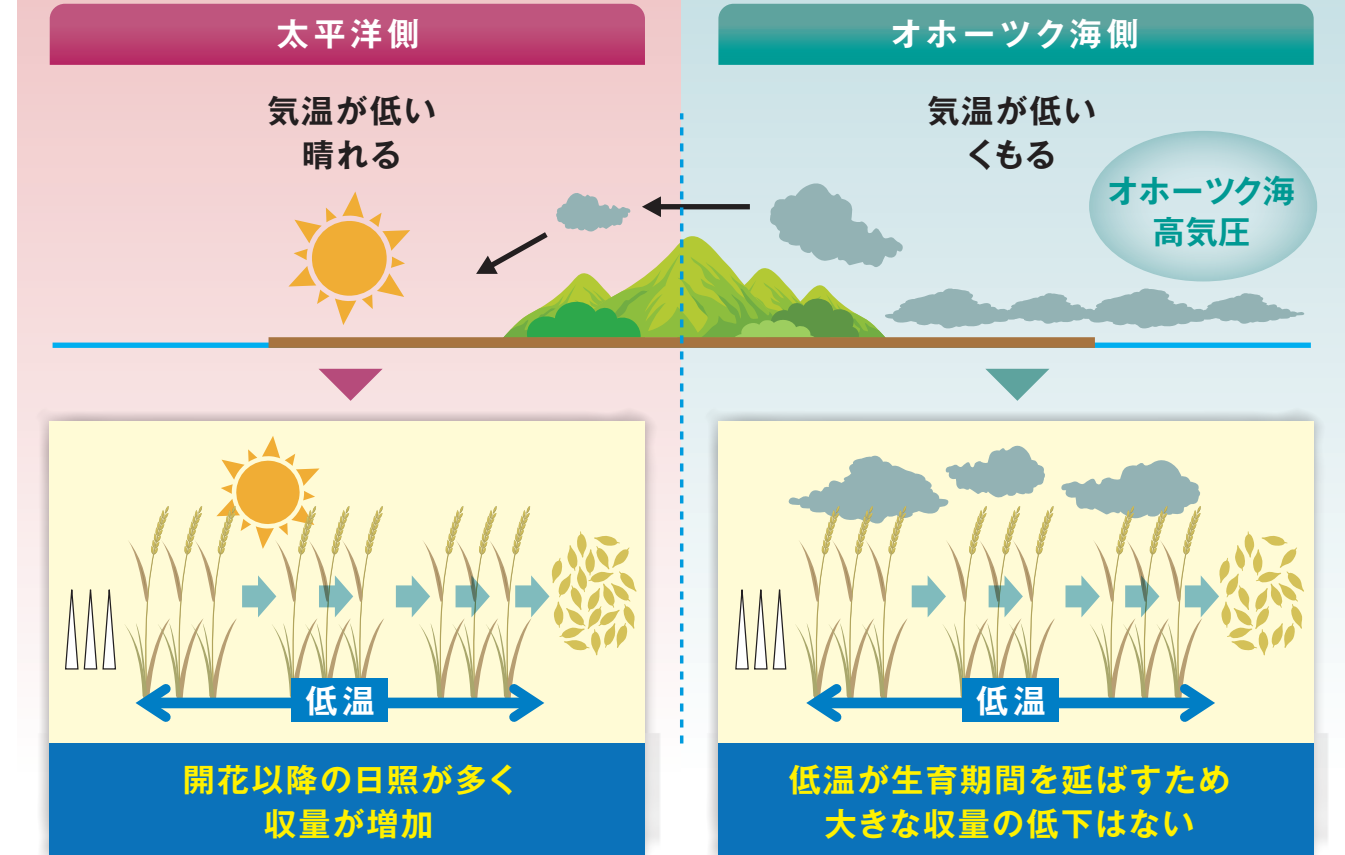
## オホーツク海高気圧が強いとき

- 北海道は広く低温(全域で多収になる)
- 太平洋側は、開花以降(6月下旬)の日照が増える
- オホーツク海高気圧は強すぎると直接太平洋側に雲が入る(1980年代、2016年など)

2006年6月下旬から7月中旬の気圧配置



・冷たい空気  
・下層に雲

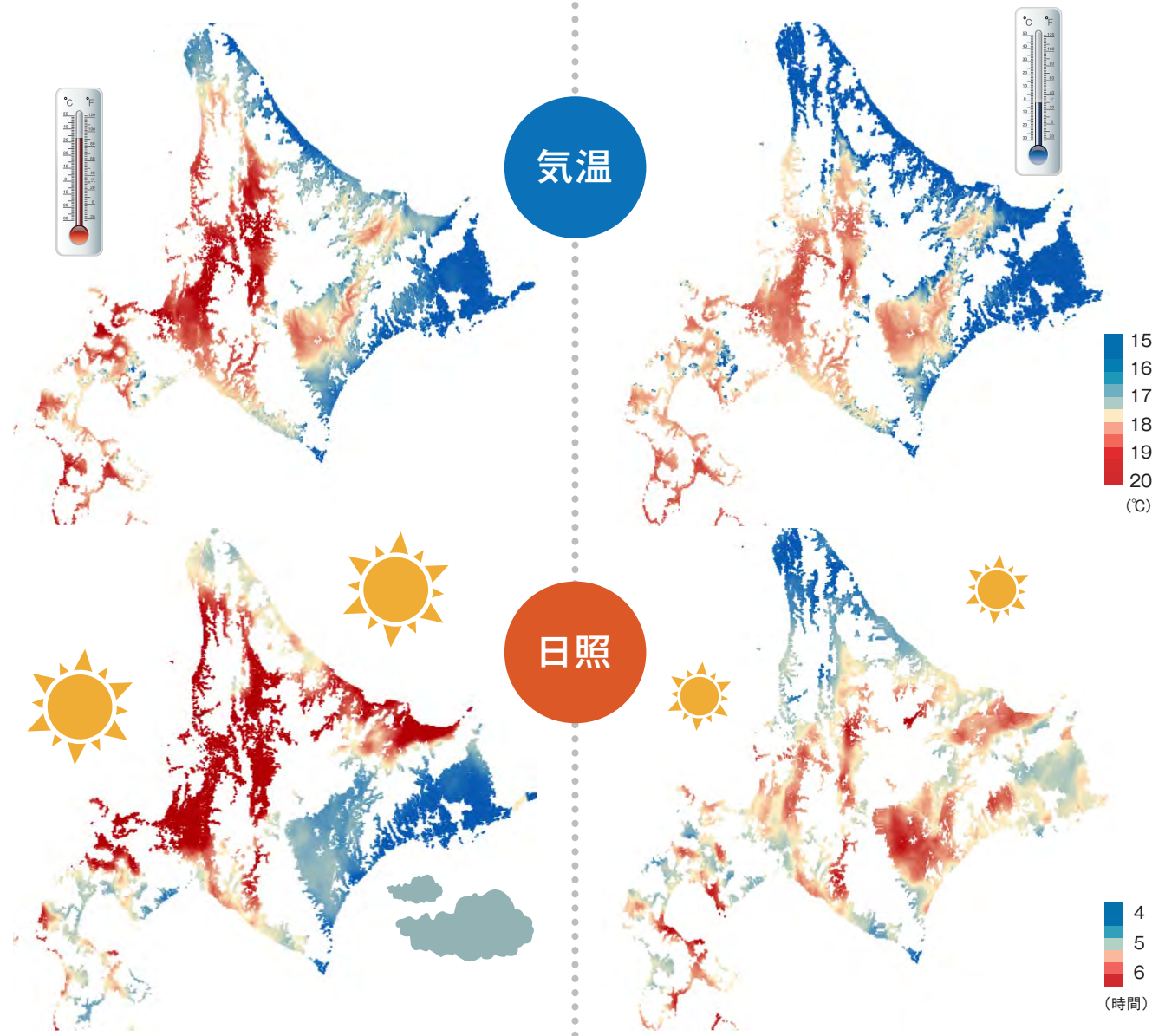


# 近年の多収年の特徴

2012~2016年(2015年を除く)

2015年(多収年)

気温



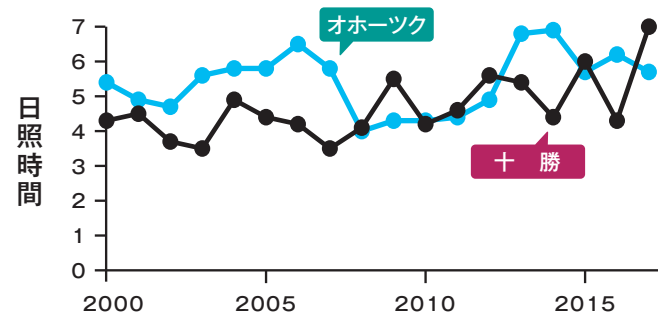
日照

期間は、6月下旬~7月中旬  
農研機構メッシュ農業気象データから作図

	2012~2016年 (2015年を除く)	2015年 (多収年)
オホーツク	538	620
十勝	459	705
全道平均	450	596

北海道農林水産統計年報

## 十勝の日照時間は変動が激しい



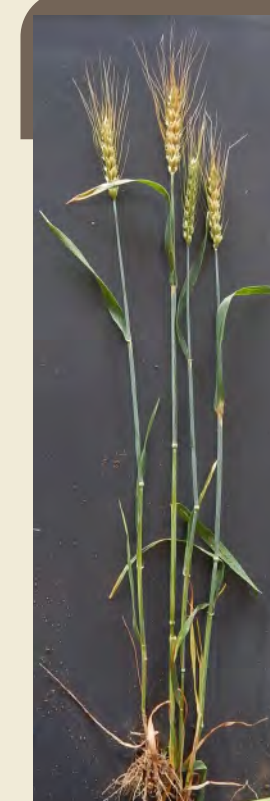
# 日照をうまく使うと 多収になる「きたほなみ」

きたほなみ



下の葉まで  
光が届ける

その他  
(写真はゆめちから)



上の葉で  
光を受ける

## 晴れている時に 多収になりやすい

十勝でも、開花以降の日照が  
十分あれば、収量が高まる

## 前半に多くの追肥

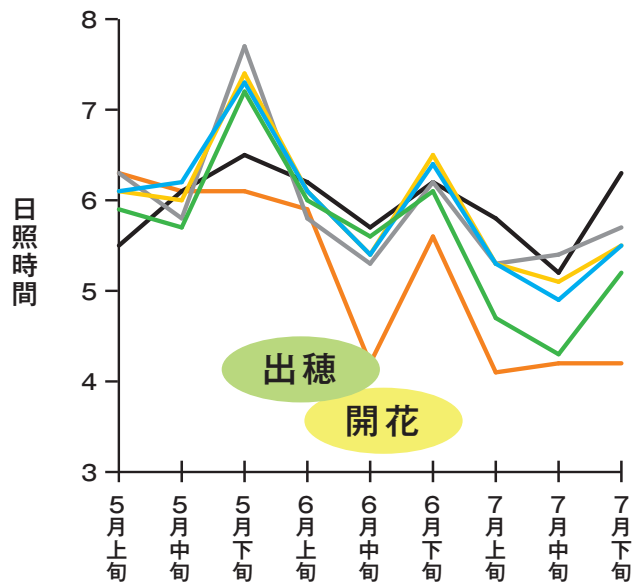
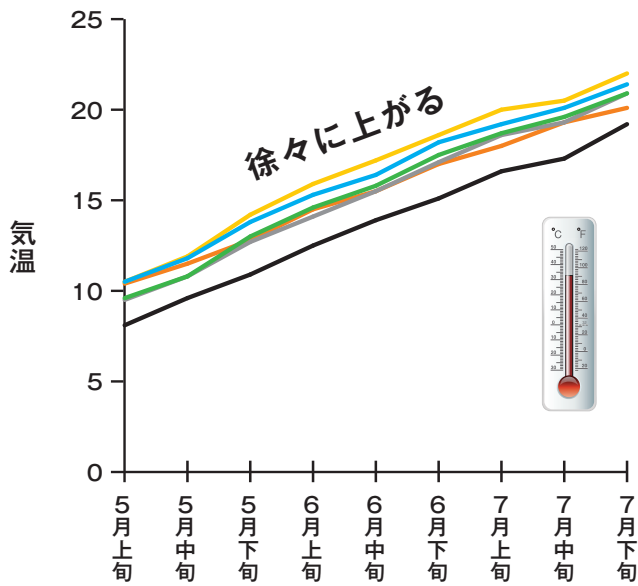
茎数が多すぎて  
(茎数が増えやすい)  
下に光が届かない

## 後半に多くの追肥

上の葉が大きくなり  
下に光が届かない

# 高温と日照不足を回避する

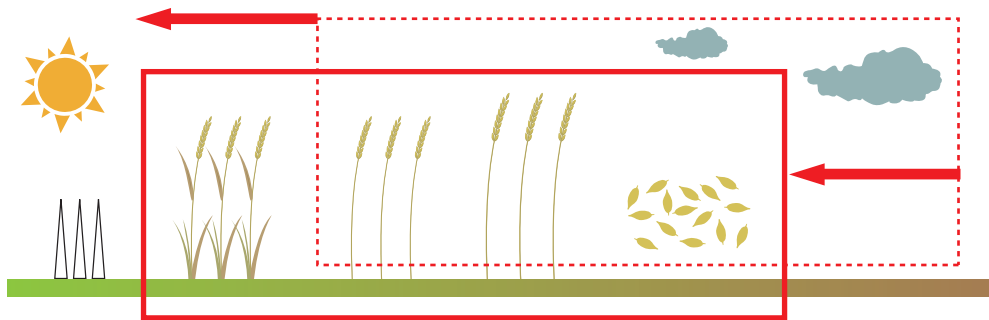
【生育が遅れる】・高温に当たる ・開花後の日照時間が短くなる



● 網走 ● 帯広 ● 留萌 ● 旭川 ● 岩見沢 ● 倶知安

最近15年間の平均気象データ(気象庁気象官署データ)

生育を早め6月上旬の出穂・開花を目指す



- ・融雪材の散布による生育前倒し
- ・適期播種

・秋の生育遅れは、融雪促進が凍上発生の原因となる場合がある

執筆者：農研機構 北海道農業研究センター大規模畑作研究領域  
気象情報利用グループ 上級研究員 下田星児